

「お請しなされ、チャツと」

「親孝心に御座りますれば、尙床しう心得まするで、證文諸共親元へ歸してやりまするで御座ります」

「久兵衛、證文を受取れ」

「ハイ、有難う存じます」

「番頭傳兵衛、それへ出る、傳兵衛、其の方は正直な奴ぢやのう、其の方の正直な事はお上は心得おるぞ」

「ア、氣味の悪い、何卒御憐愍を以ちまして」

「控へろ、御憐愍とは何の事だ憐愍を願ふと云ふは、汝は中々女人ぢやのう」

「ア……何卒お許しなさつて、全く云ひ損ないで御座ります、どうぞ御勘辨を、昨日はホンの出來心で御座ります」

「コリヤ、其の方は菊屋の店には何歳より奉公いたし居るか」

「ハイ、十歳より」

「當年は何歳ぢや」

「三十八歳で御座ります」

「治兵衛、此の者は何處の生れぢや」

「へエ、藝州廣島の生れで御座ります、モウ永年の奉公故、別家をさそうと思ふて居りますが、少々思ふ仔細も御座りますので、未だに給金を出して、宅に使ひ居ります様な事で」

「給金取りか、如何程つかはす」

「へエ、月に五十両で御座ります」

「五十両取るか、傳兵衛、今日より十年間、菊屋方で無給金で奉公いたせ、厭か、厭とあれ糺明申付けるがどうぢや」

「イ、エ、どう仕りまして、有難うお請申します」

「下役、傳兵衛の繩を解いてやれ、神妙に奉公いたせ」

「有難う存じます」

「治兵衛、右の次第である、無給金にて使ひ、仕着せだけはしてやつてくれる様」

「有難う存じます」

「コリヤ、久兵衛、面を上げよ」

「へ、エ……」

「其の方の娘、親孝心にて苦界に身を沈めたる身代金、大切なる金子を持参いたしながら、酒に性根を奪はれて落すとは不埒な奴、屹度糺明申付ける奴なれど、此の度は叱りおく、以後は心得よ」